

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と一緒にを行うケアを実践している。ADLの機能低下を防ぐ。	「一緒に見守りながら介助する」理念を管理者と職員は共有しています。残存機能を利用して「自分のことは自分で出来る」ように見守り利用者の立場で支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域小学校、又自治会等を通して地域との連携を取っている。同じマンション住民の理解が得られている	自治会の一員として交流を大切にしています。植木の手入れを手伝ったり、認知症への理解を深める活動を通じて、地域との関係が出来てきています。利用者が出ていくと見守ったり連れ帰ったりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを管理者が推進しており銀行や地域での啓蒙活動に取り組んでいる。認知症の理解と共に普通の生活が出来ることを地域に証明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会長や民生委員、又家族利用者等を出席頂き開催している。	運営推進会議には自治会長、包括支援センターや地域の人、利用者等が参加して、今年度は3回開催しました。花まつり、夏祭りや納涼会での屋台の企画や準備等を一緒になって行っています。	家族の参加を促すとともに、年6回の開催に取り組むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課や包括支援課等とは定期的に訪問頂き利用者に面接して頂いている。	包括支援センターは、3~4ヶ月に1回、定期的に訪問してきています。又、生活支援課・高齢者支援課等とは、必要に応じて連絡を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権の根幹に係る部分と考える。職員も身体拘束の研修を受けたりしている。	職員は県の身体拘束についての研修等に参加しています。例えば、玄関の鍵はいつも開けてあり拘束せずに見守ることを実施しています。	研修報告など全般的に記録が残されていません。職員間で情報を共有したり、次の計画のために振り返ったりする時にも記録が必要です。記録をきちっと残すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待をするくらいならこの仕事はしない方がよい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の8割は生活保護の方で常に生活支援課のワーカが施設に来ていただき、成年後見の話等をお伺いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に立ち会って頂き契約書・重要事項説明書等を丁寧に説明し、解らないところは丁寧に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せるように家族に声かけをしている。又相談ごとがある時には、その意見や要望を真摯に受け止めている	利用者や家族には、日常的に積極的に声掛けをし、話しやすい雰囲気作りをこころがけています。利用者や家族の声は真摯に受け止め、理解して納得するまで話し合う様に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、意見や要望を運営に反映させている。	施設長は管理者・ユニット長・ケアマネジャーと日常的に相談しあっています。職員全体の会議は、年2回あります。職員からの要望で介護用のベットを備えたり、部屋を変更するなど意見が実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の働きやすさや環境作りを真摯に考えながら長く働いていけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの訓練を主体としながら職員の可能性の確保に努めている。自分の親だったらどうしたいのか？		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などを通じて交流の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望・家族の希望等傾聴し本人が何の時が楽しいのか見極めながら運営している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのアセスメントや要望を聞きながら、家族と一緒に困っていることを解決していく。本人の意向も反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の方法として安全・快適・安心・又残存機能の能力を活用して頂き、ほめることや感動を一緒に分かち合えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の家であり職員はあくまでも出来ない部分をサポートする立場にあり尊厳を保持しながらさりげない寄添いをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族の来所を促し利用者・家族の意見を吸い上げケアに反映するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共にその利用者の友達・趣味仲間等GHIに来ていただいたりして、交流の輪をつないでいくようにしている。	利用者の家族は、家族の都合に合わせて何時でも、自由な時間に訪問出来るようになっています。又、近くにいる友達や趣味の仲間との交流が繋いでいけるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う関係が出来ている。仲間意識が強く常に支え合っている。毎日楽しい生活が出来るようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の方がGHIに見られ一緒にお世話になっていた他の利用者の方と会話をしたり職員と思い出話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のなじみの物を居室に持ち込んでおり思い出を大切に利用者の思いを尊重している。	今まで生きてきた思いや暮らし方などから一人ひとりの思いや意向を把握するために、利用者自身の話を聞く他、家族やケースワーカー・相談員などからの意見も参考にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味のことや若かりし頃の世相等を考慮し職員もその時代のことを勉強し会話に幅を持たせられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケアプランを通して又通常のADLの状況を把握し職員間や家族・看護師・医師等と共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に家族や本人の意見又職員・医師・看護師等の意見を吸い上げモニタリングを作成し介護計画に反映させている。	センター方式を活用し、介護計画には家族や本人の意見、職員・医師・看護師等の意見を吸い上げ、全職員が分担して課題を出し合い、モニタリング行っており、その結果を介護計画の作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌を活用ADLの事や趣味・嗜好の事等毎日の些細なことにも目を向け楽しい生活が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一番は利用者の生活を快適に過ごしていただくことだと信じている。その為に笑顔が見えるサポートにしていける。意見を聞き生活に反映させる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会長・地域密着した方々の来所もおおく、運営推進会議等皆さんが参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人との聞き取りをし当GHにきている医療機関以外になじみの病院に行く方はその関係を重視し病院にそのままかかれるようになった。	利用者が協力医療機関以外に、なじみの病院の受診を希望するときは、家族が同行しています。適切に受診出来るよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は病気や感染症・その時々流行しているもの(ノロウィルス・インフルエンザ等)の予防の仕方等の説明をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は提携先の病院に搬送されることが多く以前の病歴等カルテがあるため関係が良好であり、ワーカからの説明や医師からの説明等にも家族と共に職員が同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・医師・職員等で話し合いながら終末期の関わりを話し合っている。基本的に医療行為がない場合は本人・家族又医師がOKであるならば終末期をGHで迎えてもらう。	利用者・家族とは、入所時から看取りについて、話し合いをしています。終末期については、家族・医師・看護師等と連携した支援体制ができていて、何時でも施設で看取りが出来る準備ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	軽微なものは職員が手当てをするが、基本的には医師に連絡し判断を仰ぎながらの救急手当て又救急搬送になります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い一回は消防所にも立ち会って頂き通報訓練・避難訓練・誘導訓練を行っています。GH内はスプリンクラの設置をし、GH内は禁煙を徹底している。	水と食料を備蓄しています。最近、火災の誤通報により避難することが生じ、その時は建物の上階の学生さんたちが手伝ってくれました。これが機会となり地域との協力体制の構築に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋のため、プライバシーが保たれている。生活歴が個々により違うためその生活歴に寄り添うように職員は勉強している。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重した支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	合議性や本人の意見を吸い上げ日常生活のケアに働きかけている。毎日の生活に変化を付けマンネリしない工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHは利用者の家であり職員はあくまでのさりげないサポートをするところと思っている。職員がすぎることは良くない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にかットや買い物時のメイク等日常におしゃれを楽しみ洋服等清潔感のある物又本人の好きなものを選んで頂いて着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけの食事だけでなく見た目や定期的に利用者の意見を尊重し一緒に料理しながら食事している。	献立は、その日の担当者が考えて作っています。利用者の好みも把握しながら、メニューに取り入れるように工夫しています。利用者は、夕食と朝食の下準備の手伝いをしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に水分摂取はこまめをお願いしている。又食事も3食プラスおやつ等、そして利用者の嗜好を考えたメニューも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをして頂いています。入れ歯の調整や歯槽膿漏の防止等訪問歯科医と協議しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄も個々により違うのでトイレ誘導時間を考えその人の排泄時間を考慮し声かけ誘導している。	個別の排泄表で確認しながらトイレに誘導しています。自立のためにおむつは使用せず、Dパンツを利用しながら排泄の自立にむけた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢になればなるほど便秘になりやすいので水分摂取をこまめに行っている。牛乳等も便秘によいので飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人での入浴を楽しんで頂いているが、どうしても風呂の中は目を離すと危険な場所でもあるので職員が必ず付いて見まもりと利用者が洗えない場所をサポートしている。	一人での入浴が出来るようにと浴槽も一人用のものにしてあります。週2回は全員が入れるように支援しています。「つぶぞろいの湯」として楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせての介護を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理をしている。誤薬の危険性を回避したいため。医師や薬局に方に効能などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・掃除・洗濯・買物等出来るところは一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	おやつや買い物等職員と一緒に出かけいる。又家族の方とデパートに行ったりして買物を楽しんでいる。	近所の散歩に出かけるようにしていますが、足の衰えもあり、以前行っていたところまでの散歩が少なくなっています。買物は、家族と一緒にしています。	グループホームの室外に出掛ける事、日常的な外出が楽しめる事などに更に工夫が必要と思われれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族に管理をして頂き家族が見えた時に請求等をしている。家族と利用者が一緒に管理の状況を話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的到手紙を兄弟でやり取りしている利用者もおります。又電話を使い子供と会話している人もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には料理の臭いが立ち込め家庭で過ごせるような配慮をしている。	共有空間の居間には、季節の行事に合わせた飾りつけをしています。壁には、「グループホームつぶぞろい」や小学生からの手紙・行事の時の写真などを張っています。玄関やトイレなどは、車椅子でも利用し易いように改造しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間等で気の合った利用者で会話を楽しんでいる。又気の合った人同士で自分の部屋に行き会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや仏壇など以前の生活を変わらない様に部屋に持ち込んでいる。	本人や家族と相談して、以前から使っていた家具や使い慣れたベットなどを居室に持参している利用者もいます。一人ひとりの居室は、夜寝るだけにしていることもあり、ベットだけの居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援と残存能力の活用がGHの使命と考えています。		